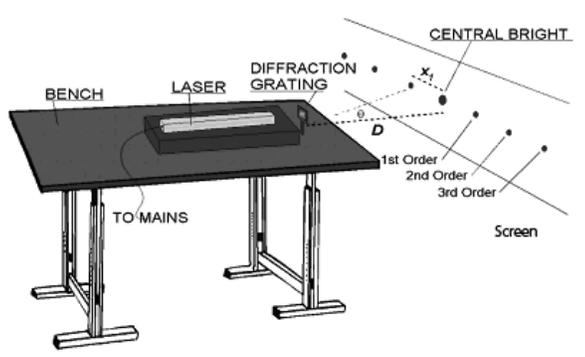
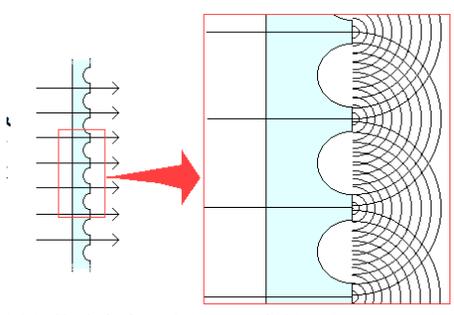


注意： レーザー光を直接目に入れないように！絶対にふざけて使用してはいけない。必ず最後の列で後方に向けて使用すること。

1. 準備 Preparation	ヘリウム・ネオンレーザー (632.8 nm) 回折格子 印刷用紙	布スケール (メジャー)
----------------------	---	--------------

2. 測定と解析	<p>1) レーザーを部屋の後方に向けて置く。 2) 使用しないときはレーザー光のシャッターを閉じておくこと。 3) レーザー光の前に回折格子を置き、回折された光を紙 (スクリーン) に映す。 4) 回折格子とスクリーンの距離および回折光のスポット間隔を測定する。</p> <p>5) 回折格子の格子定数 (d) がわかっているものについては次式が成り立つか検討する。</p> $\Delta x = \frac{L\lambda}{d}$ <p><math>\Delta x</math>: スポット間隔 L: 回折格子とスクリーンの距離 <math>\lambda</math>: 光の波長 (632.8 nm) d: 格子定数</p> <p>6) 格子定数の不明な回折格子については、測定結果から格子定数を算出する</p>	 <p>回折格子 ガラス板に 1mm について数百本の割合で細かい溝を刻み込んだものです。これに光を垂直に入射させると、溝の部分に当たった光はさまざまな方向に反射、屈折されてしまいますが、平面の部分に当たった光はスリットのように通り抜けます。よって、非常に細かいスリットを密接して多数並べた多重スリットと同じ働きをして光の干渉を起こす。格子定数は、溝と溝との間の距離。</p> 
----------	--	---